

# 混沌とした中から

## 性善説と性悪説（2）

今回は性善説と性悪説についてその本来の意味などについて解説しました。では、セキュリティの話をする中でどう関係してくるのでしょうか。その点を中心に。

自分自身を含めて周囲の人たちはセキュリティについてどのように考えているか、自分自身を考えてみればわかるかと思いますが、自分だけという考えがその根底にあるということは否定できないのではないのでしょうか。例えばウィルスに関していえば自分のパソコンがウィルス感染するなんて考えませんし、FDやUSBメモリなどの記憶媒体を鞆の中に持っていたとしても落とすことは考えません。会社に泥棒が入るとも火事になることも考えませんし、ましてや隣の人が覗き込んでいようとは考えません。しかし、本当にそうでしょうか。本当にそうなる可能性が無いのでしょうか。可能性が無いものとして考えるのが性善説です。それに対していろいろな可能性はあるものだと考えるのが性悪説です。

実際に発生したセキュリティ事故について考えてみましょう。例えばWinnnyによる情報漏洩がよくニュースになっています。Winnnyはインターネット上でファイル交換するアプリケーションで、自分のPC内のファイルを公開する代わりにインターネット上に公開されたファイルを取得できるというアプリケーションです。本来は指定したフォルダのみが公開となることをウィルスに感染することによってPC内の全てのファイルが公開されてしまいます。今となってはそれほど危険度の高いものですがいまだに利用している人が多いのも現実です。しかし、ただそれだけであれば個人のPC内の最悪でも個人的なデータが公開されるだけです。そこでこれまでの日本人の仕事のやり方と考えの甘さ、「性善説」が問題となります。仕事のやり方の問題というのは、会社と家庭の仕事の境界があいまいなことです。会社の仕事を家に持って帰ってすることは当たり前で、企業機密情報を持ち出すことに何のためらいもありません。そこに発生したのが今回の問題ですが、簡単に考えが変わるわけがありません。やっぱり忙しいとか時間が無いという理由をつけて持って帰る人が後を立ちません。中にはPC自体をもって帰る人もいます。どういう感覚なのでしょう。持って帰る人は家に帰ってまで仕事するんだ、自分は真面目だろうという意識もありますし、Winnnyなんか使っていない、使っていてもちゃんと使っているから大丈夫、もっといえばウィルスに感染なんかしない、ウィルス対策はとっているから大丈夫と考えている人がほとんどではないのでしょうか。完全な性善説です。しかしそんなに甘くはありません。ウィルスはどんな隙間も見つけて侵入します。大丈夫と思っても完璧はありえないという考えが必要です。Winnnyを使っていないからといって誰かがインストールしたかもしれませんし、新しいウィルスが勝手にインストールするかもしれません。そんな危険性は十分あります。性悪説にたっているいろいろな可能性を考える必要があります。インターネットにつながっている限りいろいろな可能性がりますし、つながってなくてもどこで情報を紛失するかもしれません、泥棒が入るかもしれません。つまり、以前はほめられた家に帰っての仕事が今は非難される行為になります。自分だけは十分注意しているから大丈夫という考え方は最悪です。決められた禁止事項さえ守られない人がどのような理由をつけても許されることにはなりません。

人を疑ってかかる性悪説は取りづらくかもしれませんが、情報についてはまず出発点と考えなければなりません。 (連載終了)

(今週の情報誌から)

○日経パソコン 12月11日号

特集 仕事はかどるビジネスソフト

→ビジネスソフトとして使っているのはWordとExcelと一部PowerPointぐらいか。しかし、目的にあったビジネスソフトはいろいろある。どんなソフトがあるのか。その使い心地はどうか。

特集 パソコンでGPS活用

→GPSがこれまで以上にいろいろ利用されている。車だけでなく登山や旅行に携帯電話を探すこともできる。

○ascii. PC 1月号

特集 この「無料ソフト」がすごい ベスト88本

→無料ソフトにもいろいろある。ブラウザやメールなどの定番からウィルス対策、本格的Office互換ソフトまで。いろいろ調べて使わない手はない。